

職リハレポート No.15

研究企画部企画調整室

今号の内容

研究成果活用レポート

職リハレポートでは、障害者職業総合センター研究部門における研究成果の活用事例を随時ご紹介しています。

今号では、埼玉県「障害者就業・生活支援センターCSA」及び「発達障害者就労支援センタージョブセンター川口」における、ワークサンプル幕張版（通称「MWS（ムース）」）の活用について、ご紹介します。

なお、研究企画部企画調整室では、研究成果の活用事例について、随時、募集しておりますので、「〇〇の研究が〇〇に役立った」「〇〇の研究成果を〇〇に利用している」「〇〇をこのように活用している」等々、お気軽にお寄せください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

〒281-0014 千葉市美浜区若葉3-1-3

Tel : 043-297-9067

Fax : 043-297-9057

Mail : kikakubu@jeed.or.jp

研究成果物の活用事例のご紹介

—障害者就業・生活支援センターCSA(社会福祉法人あげお福祉会)における ワークサンプル幕張版(MWS)の活用事例—

「MWSですか？とても役に立っていますよ！」

今回訪問させていただいたのは、障害者就業・生活支援センターCSA（以下「CSA」と記載する。）です。高崎線上尾駅から徒歩1分、上尾駅を使う人なら、とても利用しやすい立地条件にあります。母体となる法人は「社会福祉法人あげお福祉会」で、元々は精神障害のある方への支援に取り組まれていた法人とのことでした。

今回は、木全（きまた）所長と宮崎さん（就業支援担当）のお二人からお話をお聞かせいただきました。お二人とも元気一杯で、沢山パワーを分けていただきました。

CSAとは

CSAは「**Central Saitama work And life support center**」の略。市の単独事業が導入されているので、他のセンターと比べると人員は多くなっています。

○ まず、気になるのでお聞きしますが、CSAは、何の略になるのですか。

木全所長：Aは「上尾」の「A」だろうか、と考えられる方もいらっしゃるのですが、リーフレットにもあるように「**Central Saitama work And life support center**」という英文表記となり、上尾は埼玉の中心に位置するということで「**Central Saitama**」、また通称で「なかぼつセンター」と呼ばれていることで「**And**」の頭文字を並べたのだと思いますが、実は今となってはよくわかりません。

○ なるほど、「なかぼつ（・）」に該当するのは、「**And**」になりますね。でも、**And**を頭文字としてはあまり使わないので、とても珍しいですね。その他、CSAの特徴などあれば、教えてください。



上尾駅を出るとすぐ見えるプラザ館5階にCSAがあります

木全所長：埼玉県では、各市町が「障害者就労支援センター」を運営する事業を行っています。このセンターは41所ありますが、10所指定されている障害者就業・生活支援センターのうち、7センターがこの就労支援センターを併設しています。当センターも、この7センターの一つですね。

CSAの登録者は平成29年1月末で939人、就労者は328人となります。このうち精神障害のある方の利用が比較的多いのですが、法人利用者の登録が多いわけではないので、母体の法人が精神障害のある方への支援を中心としていることとは直接関係がないようです。

MWS の利用は県の事業から

埼玉県では、就業・生活支援センターのアセスメント機能を強化することで、ミスマッチによる早期離職の解消を目指しています。

- 埼玉県の場合、MWS を積極的に活用しているとお聞きしているのですが。

木全所長：そうですね。埼玉県では障害者のアセスメントをしっかりと行うことを目的に、各就業・生活支援センターにMWSが配備されており、活用しています。

- なるほど。県のホームページを見ると、「障害者ジョブアセスメント促進事業」という名称で「県内の就業・生活支援センターに配備した職業評価支援ツールを使い、職業適性をきめ細かく評価し、雇用のミスマッチを解消し早期離職を防止します。」と書かれていますね。

MWS のお話をお聞きしたいのですが、その前に、ほかにどのようなツールを利用されていますか。

- 宮崎：CSA では、MWS のほかにも、GATB（労働省編一般職業適性検査）やMSFAS（幕張ストレス・疲労アセスメントシート）、あるいはナビゲーションブック、CAT（標準注意検査法）などを利用します。

- MWS と MSFAS は障害者職業総合センターの研究部門の、ナビゲーションブックは同じく職業センターの成果物ですね。ご利用いただきありがとうございます。様々なアセスメントツールを利用されているようですが、MWS を利用するメリットはどのような点にあると思われますか。

MWS の活用について

MWS は、その結果が本人にとってわかりやすく、納得してもらいやすいもので、本人の考え方もとらえやすいため、大変役に立っています。

- 宮崎：例えば GATB では、いくつかの適性能についてご本人の傾向が把握でき、職種や職務内容を検討する上で大変有用なので、活用していますが、最後に数値化した結果を返すことから、具体的な職業の向き、不向きとしては理解されにくい面があるようです。

これに対して、MWS では、実際の作業を行いつつ、リアルタイムで振り返りも行い、補完手段、つまり環境調整についても体験していただき、作業の向き不向きや、課題となる点を整理するため、ご本人に理解していただきやすいと感じています。結果としても作業スピード、正答率など具体的な数字で変化を把握できるので、納得してもらいやすく、本人の考え方もとらえやすい、という面があります。多少時間がかかりますが、ご本人が課題を理解・整理するという点では有効だと思います。

- つまり、MWS はご本人の振り返りがしやすい、ということですね。ということは、MWS には実は簡易版と訓練版の2種類がありますが、こちらでは訓練版が使われているのでしょうか。

宮崎：そうですね。当センターでは訓練版を利用しています。

- 訓練版は簡易版より時間がかかると思いますが、CSA の場合、評価にどのくらいの時間をかけるのでしょうか。

宮崎：基本は2～3日の評価の期間をとっていますが、必要だと思われる方には、2か月間かけて評価を行います。その結果を見た上で、ハローワーク等での仕事探しに移行しますが、一般就職を進める前の準備が不足しているということになれば、就労移行支援事業所などをご紹介することになります。他のセンターでは、具体的な仕事探しの前に、仕事とのマッチングを図るための評価を行っている場合もあるようです。

- なるほど。仕事とのマッチングを見るというだけであれば、簡易版でも十分かもしれませんね。しかし、CSA が力を入れているように、本人の振り返り、課題理解を進め、本人と共に今後の取組方針を決めていくという際には、多少時間は必要ですが、訓練版の方が向いているように思いますね。

ところで、評価の結果について、ご本人の了解を得て、関係機関で共有されるのだと思いますが、どのような形でまとめられていますか。

宮崎：このような形（下記「表」参照）で、基本は GATB と MWS の振り返り、本人の希望など、また今後の課題と目標設定という内容を大まかに記載することになります。

- ありがとうございます。CSA では、アセスメントに力を入れて取り組まれている様子がよくわかりました。今後アセスメントに取り組もうという事業者にとっては、より簡便な、

あるいはわかりやすいとりまとめ方が重要であるので、この様式は掲載させていただいて良いですか。

宮崎：結構です。

- 今後のアセスメントにおける課題は何かありますか。

宮崎：「ヒューマンスキル」に関することが課題です。「ワークスキル」は、MWS等で振り返りがしやすくなったのですが、ヒューマンスキルについては、振り返りがしにくいと思っています。ヒューマンスキルのアセスメントとフィードバックなどを効果的に実施するツールがあると良いと思います。

- 正解、不正解という明確な基準がないこと、状況判断が十分にできない方も多い、ということから、ご本人が受け入れにくいということでしょうか。個別の場面を通じて振り返りや試行ができるようであると良いのかもしれませんが、F & T感情識別検査などの活用も可能かもしれませんが、特定の場面に限定されるかもしれません。ニーズとしてお聞きしておきます。

今後の課題について

就職活動を進める対象者が少なくなっていることと定着率の向上が課題。これらに取り組むためには、圏域内の関係者の共通認識を得ることと定着を見据えた支援を進めることが重要。

- MWS 等のアセスメント・トレーニングツールを活用して、利用者の就職活動を円滑にサポートされているのだと思いますが、現在のCSA の課題とはどのようなものでしょうか。

木全所長：CSA では、徐々に就職活動に移行する者が少なくなっていて、企業が採用したいというニーズに対応できなくなっているというのが一つ目の課題です。

就労移行などの福祉事業所をご紹介しても、就職活動に戻ってこない方も多くあります。このため、ご本人を紹介する場合には、福祉事業所への情報提供を含めて、当センターの職員も同行して、依頼をするようにしていますが、今後は、さらに福祉事業所利用中のCSA 登録者の利用状況や課題の変化などのモ

ニタリングを行って、適切なタイミングで就労に向け動けるようにしたいと考えています。

また、地域の支援力の向上を効果的に図ることが必要だと考えています。

このため、地域自立支援協議会における【はたらく部会】の中で、圏域内で共通のアセスメントツールを作成し、福祉事業所等へ普及させる活動を行っています。

二つ目の課題としては、**定着率の向上**ですが、就職後の不適応状態となった際の対応だけでなく、就職前の準備も重要だと考えています。

このため、登録時のアセスメントを重視して取り組むと共に、職業準備性に関する適切な理解を促す当事者への関わりと同時に、当事者を支援する力の向上に向けた福祉事業者への働きかけも、当センターの重要な役割として取り組んでいます。

また、定着支援については、不適応状態となる前に計画的に実施することも重要と考えていますが、現在は、ジョブコーチの増員や定着支援ミーティング等を実施することで、定着率の向上を図ろうと取り組んでいます。今後は、計画的な定着支援の実施等が課題でしょうか。

- 1点目は、近年、障害者の就職が進んで、求職活動に移行する障害者が減少しているということですね。一方で福祉サービスの事業者の増加もあるので、このように増えてくる事業者のアセスメント能力を引き上げて、求職活動に入る障害者の数を増やそうということですね。

2点目は、就職後の定着率について、現在はジョブコーチ支援や定着支援のためのミーティング等で対応していらっしゃりつつも、不適応状態に陥ったあとの支援だけではなく、できるだけ不適応状態に陥らないための支援をどのように目指すか、という具体的な想いが見え隠れするお話であったと思います。

いずれも、うまく軌道に乗っていかれることを願っておりますし、是非また覗きに來たいと思います。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

事務所内の風景



MWS実施の様子



（表）障害者就業・生活支援センターCSA で使われる評価結果のとりまとめ用様式

- ・ GATB やワークサンプル（MWS）の振り返りと今後の方向性について整理するもの
- ・ 状況を共有し、方向を定め、課題を明らかにするための項目が整理されている

障害者就業・生活支援センターCSA

平成 年 月 日

_____さん
作業の振り返りと今後の方向性

1. 適性検査（「GATB」2時間のペーパー検査）の振り返り

2. 作業検査（「MWS」2日間の色々な作業）の振り返り

強み	

心配な点	

3. 今後の方向性

本人の希望・思い	
----------	--

課題と目標	
-------	--

—発達障害者就労支援センター ジョブセンター川口(パーソルチャレンジ株式会社)における ワークサンプル幕張版(MWS)の活用事例—

「MWSですか？支援機関からの評判も上々です！」

こちら、立地条件がすばらしく、川口駅から徒歩3分。とても立派なオフィスビルにあるジョブセンター川口でもMWSを活用されているとのことでしたので、日頃の活動も含めて、お話をお聞きました。

ジョブセンター川口ってなんですか

コミュニケーションや社会性に課題を抱える発達障害者の就労を支援するために埼玉県が委託事業として県内4か所に設置する就労支援施設です。

- ご対応いただくのは、ジョブセンター川口で専門相談員をされている橋本早紀さんです。さて、早速、大変ぶしつけな質問で申し訳ないのですが、ジョブセンター川口は、「発達障害者就労支援センター」だということですが、「発達障害者支援センター」ではないのですね。これまであまり聞いたことがないように思うのですが…。

橋本：発達障害者就労支援センターは埼玉県が設置する発達障害者に特化した就労支援施設です。「ジョブセンター」の名称で川口市、草加市、川越市、熊谷市の埼玉県内4か所にあり、それぞれ障害者就労支援移行支援事業所が併設されています。ジョブセンターの運営は、障害者就労移行支援事業所と一体的に運営することが効果的であるため、障害者就労移行支援事業所を運営する民間法人に委託されています。



ジョブセンターでは、障害者手帳の有無にかかわらず、発達障害の特性があって就労に困難を抱えている方に対して、就労相談から職業能力評価、就労訓練、就職活動、職場定着までの支援をワンストップで行っています。また、医師の診断がない発達障害の特性のある方に対して、就労相談や職業能力評価を行っています。

- なるほど埼玉県の独自事業ですね。発達障害のある方への就労支援として、相談を行う場所を変えないのが望ましいということで、ワンスト



ップセンターなのでしょうね。県から委託を受けることで障害福祉サービスの就労移行支援のご利用者以外の方からの就労相談などにも対応できるのですね。

橋本：そうですね。ジョブセンター川口は、発達障害の特性がある本人だけでなく、家族や関係機関なども含めて幅広く就労相談を受けています。利用登録は、3年半で約880名となっており、障害福祉サービスの就労移行支援の登録者は95名程です。現在、就労訓練に通われている方は約25名となります。私は、相談部門で相談と職業評価などを担当しています。

- 就労相談の方が880名ですか。880名はかなり多いですが、就労移行支援の登録者は比較的少ない感じですね。

橋本：就労相談を希望される方でも、発達障害の診断がない、あるいはそこまで必要と考えていない、経済的に余裕がない方なども多くいらっしゃいます。就労相談後、ジョブセンター川口での就労訓練を希望されない方には、本人の現状や希望を踏まえて若者サポートステーションなど別の支援機関の利用を案内す

発達障害のある方への支援

初期のアセスメントに基づき環境調整ができれば、ご利用者が安心できる訓練環境の提供が可能。利用者が発達障害に限定されるので、スタッフも対応しやすい？

ることも多くあります。

- ジョブセンター川口の3年間の取組について、特に支援が比較的難しいと言われる発達障害がある方への支援について、どのように感じていますか。

橋本：発達障害の方は、幼少時から人と違うことで疎外感などを感じていらっしゃる方も多いと言われます。ジョブセンター川口では、ご利用者が発達障害の特性がある方に限られているため、通所を繰り返すうちにご利用者同士の会話が增多することが多く、それがコミュニケーション能力の向上にも役立っているのかもしれない。

- 発達障害の方を集めたトレーニングなど、かなり大変なのではないですか。

橋本：例えば「うつ」の方などは、体調の変動の影響が強く、これに対応する必要がありますが、発達障害の方の場合、個性性は強くありますが、個人内の変動は少ないといえます。このため、音に対する過敏さなど、個々の発達障害の特性に応じた環境調整を行うことでご利用者は安心して就労訓練に参加できています。

また、ジョブセンターではご利用者が発達障害の特性がある方に限られるため、スタッフは発達障害に特化した支援に集中することができます。

就労訓練は、実際の職場を模したオフィス環境でスタッフが上司役となりご利用者に作業を指示し「報告・連絡・相談」を実践するトレーニングが中心となっています。併せて、電話のかけ方、受け方等をトレーニングするビジネスマナー講座やワードやエクセルを使用して文書作成等を行うパソコン講座などを組み入れて月ごとにプログラムを組んで実施しています。

就労訓練を始めると障害特性がよりの確に把握できることとなるため、それを受けて個別面談の場で不足している就労スキルなどをご利用者へフィードバックしています。今後の就労訓練の進め方などもご利用者と相談して決めています。

情報共有と共通認識

ご利用者が適切に選択できるよう、様々な情報を共有し、支援機関や家庭、企業との共通認識を得ることが重要である。

- ありがとうございます。では、ジョブセンター川口で、特に力を入れている点はどのような点になりますか。

橋本：就労相談の利用登録者数からもわかると思いますが、就労相談に力を入れています。今後の方向性をご利用者と検討する際、発達障害者支援センターなど他の社会資源についてもご利用者が理解しやすいように情報提供することを心がけています。必要な情報を共有し、ご利用者が最適な選択をできるようにすることが、とても重要だと考えています。

また、ご利用者自身が自らの障害特性や課題を理解することに加えて、家族や雇い入れる企業が本人の障害特性を正しく理解することも仕事を続ける上で重要なことであると考えています。

- 確かに、障害特性を周囲が正しく理解しにくいこと、またご本人自身も理解していない場合がありますね。

橋本：ジョブセンター川口のご利用者には、大学卒業までは順調に過ごしてきたものの、就職した職場でうまく適応できなかったという方もいらっしゃいます。そのような方には、ナビゲーションブックなどが有効だと感じています。

一方で、ご利用者の理解力によっては振り返りが難しい場合もあります。

アセスメントツールとしてのMWS

ご利用者にとって、受検時のイメージと検査結果が一致しやすいし、具体的な行動で課題を記載することで、支援機関にも評判が良いです。

- 確かに過去の状況を言語化あるいは概念化できない方は振り返りが難しい面があるように思われますね。ここで、そろそろ、当センターの研究・開発の成果の活用についてお聞きします。センターの成果物で、活用されているのは、どのようなものでしょうか。

橋本：先ほどお話ししたように、ナビゲーションブックとMWSの簡易版を活用しています。MWS簡易版による評価は、ご利用者にとって受検時のイメージと結果が一致しやすいため、課題等の整理を受け入れ易いように思います。

また、この検査結果を他の支援機関と共有する際、検査結果得点としてではなく、具体的な行動として把握できるため、支援機関と共通認識を図りやすいのだと思います。

ご利用者に結果を返す場合に、MWSで得られるパーセンタイル順位はお見せしていません。

また、MWSの検査結果報告書（別紙1）により大きく所見をまとめて、各検査項目（別紙2）のそれぞれの項目に4～5行所見を記載します。そして、所見としてまとめて本人の理解を得た上で支援機関と共有しています。

- パーセンタイル順位は見せないのですね。確かに、このMWSの結果を返す記述（別紙1）ですが、作業内容の説明と正答数、掛かった時間のみですね。MWSでは、正当数、掛かった時間ともパーセンタイル順位が算出され、職域の検討に利用できるようにしていますが、課題となる行動よりも数値として現れるパーセンタイル順位の影響が強いということでしょうか。

橋本：ご利用者の中には成功体験が少ない方も多いので「できなかった感」をこちらの想像以上に強く感じる方もいらっしゃいます。検査結果に強いショックを受け、その後の就労相談が継続できなくなることなどを避けるために、ジョブセンター川口ではパーセンタイル順位をお見せしていません。

- MWSはアセスメントのツールとして、開発しているものですが、それぞれの現場で使いやすいように工夫されているものと思います。この様式はいただいて、ご紹介してもよろしいでしょうか。

橋本：ジョブセンター川口で使用している様式は、埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」で使用している様式を参考に作成したものです。

- なるほど。

橋本：就職活動を進めていく際には、ナビゲーションブックを活用しています。ナビゲーションブックの作成は、自己理解の促進に役立ちます。

また、就職面接の際には、企業の方に対して、自己理解の状況を伝えるとともに合理的配慮についての要望を伝えることができます。企業側は対応可能な職務内容を判断するのに役立てているようですね。

- 今後の課題について、何かありますか。

橋本：最近は、相談に来る方で「生活」に課題のある方も多くいらっしゃいます。例えば、経済的に厳しい方、家庭環境に難しさを抱えていらっしゃる方等です。経済的に厳しい方の場合、十分な準備の時間が取れないまま就職しなければいけない状況となります。そのため、金銭管理、生活管理、家庭環境の課題整理と支援が必要となります。今後は、他の機関との連携の取り方などについて検討していくことが必要であると考えています。

- ありがとうございました。
発達障害のある方の就労に特化したワンストップ型の支援を行う、「ジョブセンター川口」の今後の取組については、さらに期待をしたいと思います。

その際に、当センターの研究成果など、是非お試しいたいて、また活用事例としてお知らせください。

「ジョブセンター川口」の検査室（MWSの課題が使い込まれていました）



検査結果報告書

MWS

氏名:様(歳、性) 検査日:2017 年月日・日

面接担当者:ジョブセンター川口 専門相談員

	所見
検査の概要 検査の様子	ワークサンプル幕張版(MWS)の簡易版キットを用いて、OA ワーク・事務作業・実務作業の 3 領域、合計 12 種類のワークサンプルを 2 日間に分けて実施しました。
OA ワーク	
事務作業	
実務作業	
まとめ	

(別紙2) 作業項目ごとのコメントを記載する様式
通常、各項目に、2, 3 行の所見を入力しているとのこと。

以下 作業名(正答率 作業時間)

<OAワーク>

○数値入力(12 問中間正解 秒)

見本と同じ数字を入力する作業でした。

○文書入力(10 問中間正解 分秒)

見本と同じ文章を入力する作業でした。

○コピー&ペースト(8 問中間正解 分秒)

セルや文章をコピーして指定の箇所に張り付ける作業でした。

○検索修正(5 問中間正解 分秒)

パソコン上のデータを作業指示書に従って検索し修正する作業でした。

○ファイル整理(12 問中間正解 分秒)

ファイルの名前を見て 2 つのフォルダのうち適切な方に振り分ける作業でした。

<事務作業>

○数値チェック(12 問中間正解 分秒)

納品書と請求書を見比べながら、請求書上の金額の間違いを修正する作業でした。

○物品請求書作成(6 問中間正解 分秒)

注文書に従ってカタログを参照し、商品の品番・単価・計を求め、物品請求書を作成する作業でした。

○作業日報集計(176 問中間正解 分秒)

作業日報を集計し、集計表を 5 枚作成する作業でした。

<実務作業>

○ナプキン折り(6 問中間正解 分秒)

見本のビデオを 1 回見て、2 回目を見ながらナプキンを折る作業でした。

○ピッキング(5 問中間正解 分秒)

注文書の内容に従って、商品棚から商品をピックアップする品出しの作業でした。

○重さ計測(5 問中間正解 分秒)

砂やボルト(大・中・小の 3 種類)を指示通りの重さに計る作業でした。

○プラグタップ組み立て(2 問中間正解 秒)

コンセントに使う三叉タップを検査者が組み立てる場面を見て、その後実際に 2 つ組み立てる作業でした。

○ ワークサンプル幕張版 (MWS) とは

- 当機構の障害者支援部門で開発したワークサンプルの名称です。OA 作業、事務作業、実務作業に大別された作業によって構成されています。簡易版と訓練版に分かれ、作業の疑似体験や職業上の課題を把握する評価ツールとしてだけでなく、作業遂行力の向上や障害の補完方法の活用に向けた支援ツールとして使うことができます。
- 各ワークサンプルとも、十分な課題分析に基づき、難易度を設定しているため、簡単なレベルから難しいレベルへ進めることができます。
- 詳細は、障害者職業総合センター研究部門ホームページの「ワークサンプル幕張版 (MWS) のご紹介」http://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouzai/21_2_MWS.html をご覧ください。